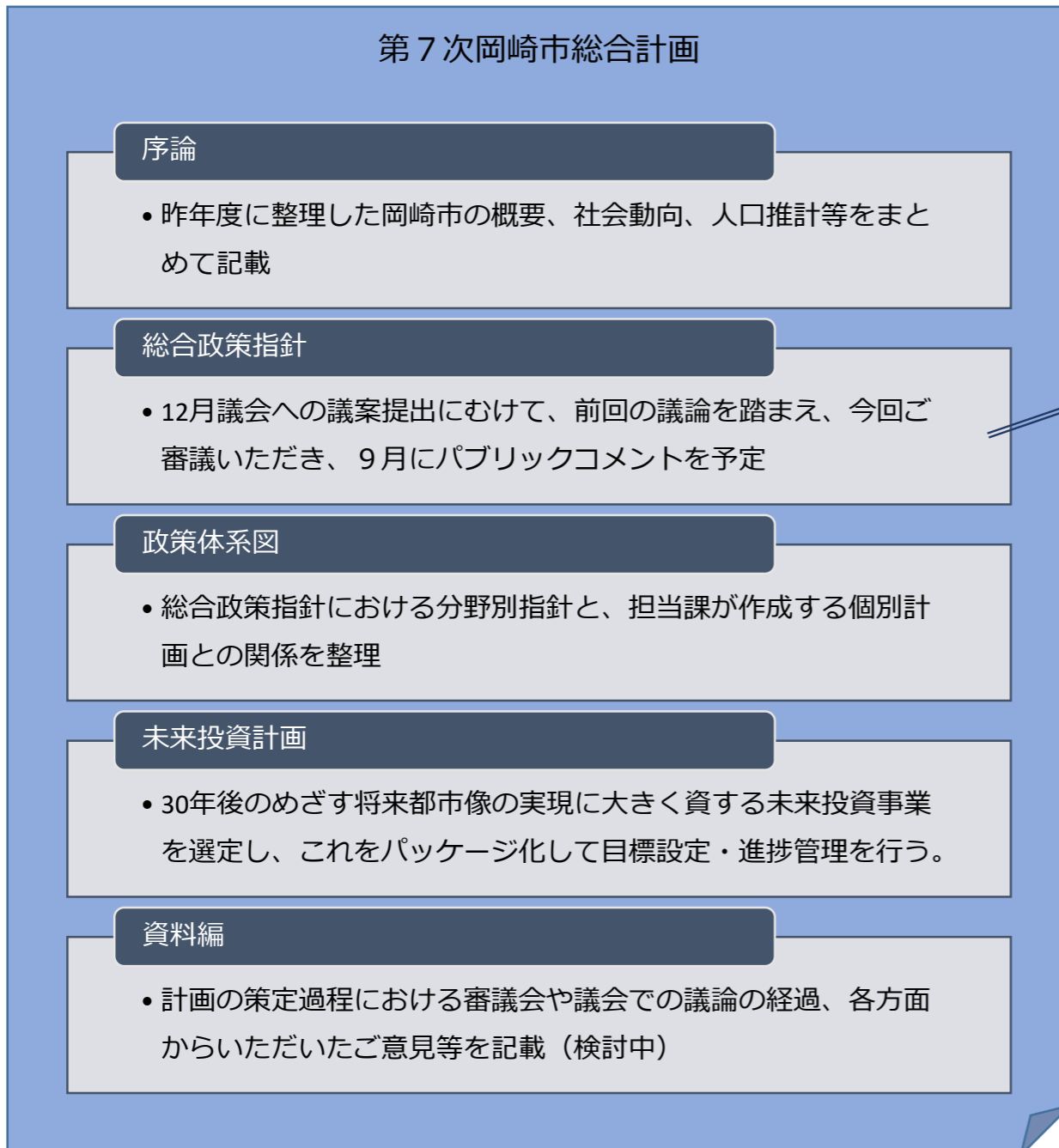


本日は、前回審議会を踏まえ、9月に予定しているパブリックコメントにむけた総合政策指針素案に対するご議論をいただきます。

	2019年度	2020年度	2021年度
総合政策指針	案の作成 6/18 8/19 12月議会		
審議会	6/18 8/19 10月 2月	計画公表 周知期間	次期計画期間
未来投資計画	案の作成		
各課作成個別計画 ※	準備	案の作成	



○岡崎市総合政策指針（素案）

- 1 総合政策指針とは
- 2 総合政策指針の期間
- 3 将来都市像
- 4 基本指針
 - (1) 公民連携による成長戦略の推進
 - (2) コンパクトな都市構造の構築
 - (3) まちへの誇りが育まれていく社会づくり
 - (4) 周辺都市との連携体制の推進
- 5 都市のグランドデザイン
- 6 分野別指針
 - (1) 暮らしを支える都市基盤づくり
 - (2) 暮らしや産業を守る強靱な都市づくり
 - (3) 持続可能な循環型の都市づくり
 - (4) 多様な主体が協働・活躍できる社会づくり
 - (5) 健康でいきがいをもって活躍できる社会づくり
 - (6) 学びによる活躍で岡崎愛が育まれていく社会づくり
 - (7) 子どもや女性がいきいきと活躍できる社会づくり
 - (8) 商業と観光が成長産業となる地域経済づくり
 - (9) ものづくりが柱でありつづける地域経済づくり
 - (10) スマートでスリムな行政運営の確立

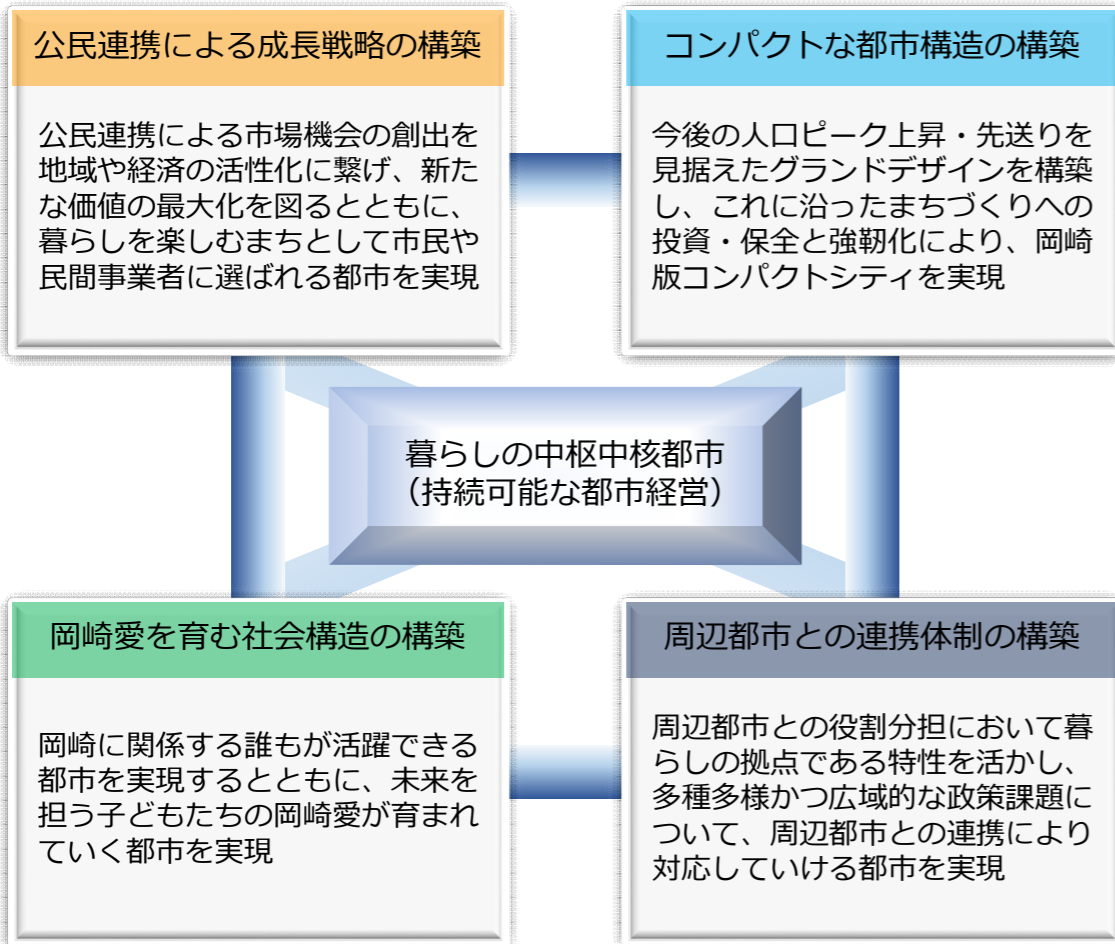
次頁以降に具体的な素案を記載

【6月18日審議会資料】

<将来都市像>

暮らしの中核中核都市 おかざき
— オープンリビングシティ —

- ◆ 国内屈指の製造業拠点である西三河において、人口規模を増加・維持する取組みが効果を発揮し、既存行政機能の集積や、さらなる商業機能の集積をもって、「暮らしの中核中核都市」としての役割を担っている。
- ◆ 「公民連携による成長戦略の構築」「コンパクトな都市構造の構築」「岡崎愛を育む社会構造の構築」「周辺自治体との連携体制の構築」による、持続可能な都市経営をもって「暮らしの中核中核都市」の実現を図る。



- ◆ 以上の将来都市像は、市域にとらわれず車で30分程度の移動圏内に居住する50万人とする。

【 総合政策指針素案 1 / 3 】

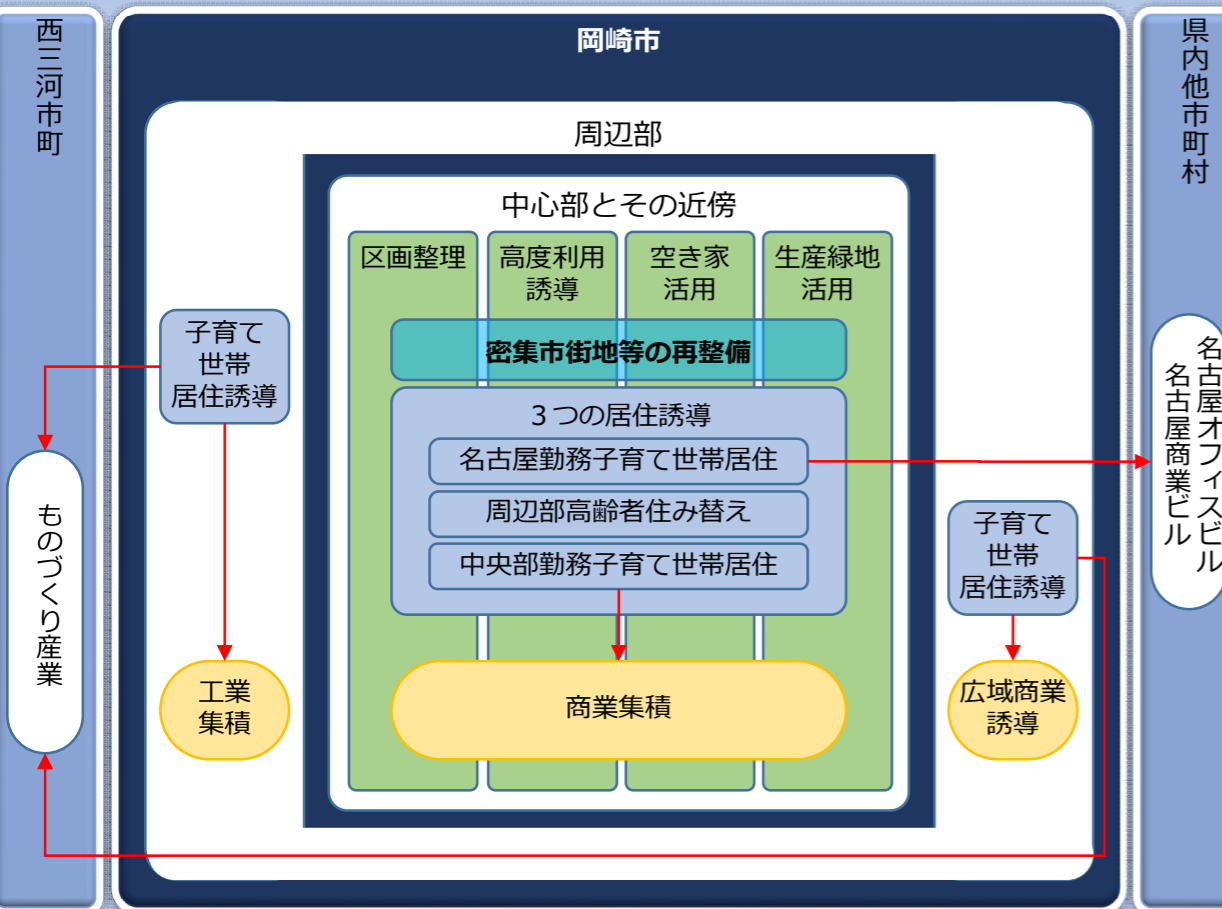
○ 岡崎市総合政策指針

- 総合政策指針とは
総合政策指針とは、総合計画の基本的な方向性を示すもので、本市のあるべき「将来都市像」、その実現のための「政策指針」、都市構造の概要を表す「ランドデザイン」により構成するものとします。
なお「政策指針」は、将来都市像実現にむけた駆動力を表す「基本指針」と、「基本指針」をふまえた取組みの方向性を表す「分野別指針」からなります。
- 総合政策指針の期間
この総合政策指針は、令和32年度(西暦2050年)を目標年度とします。
- 将来都市像
「一歩先の暮らしで三河を拓く 中核・中核都市おかざき」
目標年度には、国内屈指の製造業拠点である三河地域において、人口規模を増加・維持する取組みが効果を発揮し、行政・学研機能の集積や、さらなる商業機能の集積をもって、**一歩先の暮らしを実現できる都市として三河地域の発展を牽引する**役割を担っていることをめざします。
また、これをふまえ、将来都市像では市域を基本としつつ広域圏を見据え、将来にむけては人口50万人を想定します。
- 基本指針
将来都市像の実現にむけ、「公民連携による成長戦略の**推進**」「コンパクトな都市構造の構築」「**まちへの誇りが育まれていく社会づくり**」「周辺自治体との連携体制の**推進**」による、持続可能な都市経営を推進します。
 - 公民連携による成長戦略の**推進**
市場性が見込まれる行政サービス領域について、民間の経済活動と行政が相互に補完し合うことをめざす取組みをきっかけに、さらなる市場機会の創出や地域経済の活性化を図るとともに、暮らしを楽しむまちとして市民や民間事業者には選ばれる都市の実現をめざします。
 - コンパクトな都市構造の構築
今後の人口ピーク上昇・先送りを見据えたランドデザインと、これに沿ったまちづくりへの投資・保全や**都市の強靱化**により、岡崎版コンパクトシティの実現をめざします。
 - まちへの誇りが育まれていく社会づくり**
岡崎に関係する誰もが活躍できる都市を実現するとともに、未来を担う子どもたちを**始めとする全ての世代で、岡崎のまちへの誇りが育まれていく都市の実現をめざします。**
 - 周辺都市との連携体制の**推進**
三河各都市との役割分担において暮らしの拠点である特性を活かし、**連携して広域的な共通課題の解決を推進することで、共に発展していくための拠点となる都市の実現をめざします。**

【6月18日審議会資料】

	中心部	周辺部
強 化	<密集市街地等対策> 居住誘導区域における再整備	<手法> ・区画整理 ・高度利用誘導 ・空き家活用 ・生産緑地活用
居 住	<誘導対象> ・名古屋勤務の子育て世帯 ・中心部商業に従事する子育て世帯 ・周辺部への居住の高齢者	<用地確保策> 市外から中心部への高齢者世帯の 住み替え促進 <誘導対象> 市外ものづくり産業に勤務する子 育て世帯
商 業	<誘導対象> 半径9km圏内50万人の生活を支え るとともに、観光客の消費を喚起 するコンテンツとしての商業	<誘導対象> 充実する高規格道路を活かした広 域商業や、周辺部居住者の暮らし を支える商業
工 業		<誘導対象> 高規格道路をはじめとする道路網 と周辺企業立地を活かした工業

概念図



【 総合政策指針素案 2 / 3 】

5 都市のグランドデザイン

これまで本市は、ものづくり産業へ勤務する若年世帯の居住地やその生活を支える商業機能を中心としたサービス産業に携わる世帯への居住地を、主に周辺部における住宅開発や大規模な区画整理事業等により確保してきました。また、その結果、現在に至るまで市街地の拡大、人口の増加、高い出生率を維持することができました。また、近年は主要駅周辺において、岡崎市民だけでなく来街者が暮らしの楽しみを実感できるエリアとして主要駅周辺のコンテンツ充実に向けた取組みに着手し、その成果を得つつあります。

全国的には2008年以降人口減少期を迎えたことを背景に、人口減少局面にあっても持続可能なグランドデザインへの転換が始まっていますが、本市においては今後も若者世帯による市街地周辺部での高い住宅需要が見込まれています。また、リニア中央新幹線の名古屋開通に伴い、名古屋駅周辺での大規模再開発が予定されており、そのオフィスビルや商業ビルに勤務する若者世帯の居住を誘導できる可能性を有しています。加えて、すでに充実している高規格道路に加え、名古屋三河道路の開通を見据えた高度都市化が期待されます。

そこで、過去から現在、現在から将来への連続性を見通しながら、高まる高齢化率への対応や、しなやかで強靱な都市の実現を視野に入れ、基本指針で掲げた「人口ピークの上昇・先送りを見据えたグランドデザイン」を設定します。

(1) 市域中心部

市域のなかでも、都市機能が集積する中心部においては、三河をひらくおかげにふさわしい商業機能を中心とする都市機能のさらなる集積を図りつつ、徒歩や公共交通によるまちなかの暮らしができるエリアとして居住を促進します。

ア 都市機能用地や居住地の確保と強靱化

エリア内の各特性を勘案した高度利用の促進、空き家の活用、生産緑地の活用を複合的に組み合わせることで高度都市化を促進するとともに、密集市街地においては狭い道路の解消を図ります。

イ 居住の促進

このエリアには、名古屋をはじめとする市外へ勤務する若者世帯や、このエリアの都市機能に勤務する若者世帯のほか、市街地周辺部に居住する高齢者世帯のうち中心部での便利な暮らしを求める世帯の居住（住み替え）を促進します。

(2) 市域周辺部

ア 居住地の確保

市域中心部での便利な暮らしを求める高齢者世帯の住み替えにより生じた居住用地を、新たに居住地を求める若者世帯へ供給することで、市街地周辺部人口の若返りを促進します。

イ 産業用地の確保

市街化区域内におけるいわゆる住工混在解消に向けた工場の市内移転や新たな産業の誘致により、市民の経済活動の市内完結を図るため、既存の土地利用との整合に留意して新たな産業用地の確保を促進します。
また、充実した高規格道路を活かした広域商業用地の確保・誘致を行うことで、広域来街者を呼び込むとともに新たな雇用創出を促進します。

ウ 自然環境の保全

市民や来街者が、自然環境をコンテンツとして楽しみながらその恩恵を実感できるよう、保全を促進し、投資の誘導を図ります。

(3) 交通ネットワーク

通勤渋滞や休日渋滞の解消、高齢者の生活移動手段の確保、交通安全対策など、暮らしに直結する交通課題について、公民連携して新技術の実装に取り組むことで、新たな交通ネットワークの構築を図ります。

【6月18日審議会資料】

まち
(環境)

住環境・交通・都市基盤の充実

岡崎版コンパクトシティの実現にむけて、しごとに引き寄せられて集まってきたひとの住宅需要に対応しつつ、市民の暮らしと向き合った都市政策が行われるまちを目指す。

防災・強靱化の推進

市民を災害から守ることは、日本を支える産業の強靱化に直結していることを念頭に、周辺都市を含む公民連携やインフラ老朽化対策と連動して、災害に強いまち・被災時もスピード感をもった復旧ができるまちを目指す。

自然環境・森林の持続可能性向上

環境・経済・社会の課題を踏まえ、公民連携して複数課題の統合的な解決を図る地域循環共生圏の枠組みの中で、排出CO2の削減、森林資源の保全、農地の保全がなされる持続可能なまちを目指す。

ひと
(社会)

地域課題解決の支援

多様な主体が協働・活躍する地域共生社会を実現するとともに、新技術導入などにより人口構成の変化や年代別人口の偏在に起因する、担い手不足に負けない町内会の持続的な活動を支援するまちを目指す。

保健・医療・福祉の充実

後期高齢者の急激な増加を迎える中であっても、各主体が我が事として活躍する地域共生社会の実現により保健・医療・福祉・地域が一体となって取り組むことで、誰もが役割を持って活躍できるまちを目指す。

生涯を通じた教育の充実

今後、大きな社会変化が起こった場合も、市民が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現できるまちを目指すとともに、学校教育の中で岡崎愛が育まれるまちを目指す。

子育て支援・女性活躍支援

3世代の同居・近居率の高さ、西三河製造業勤務世帯の多さなど、本市特性に合わせ、保護者の就労をはじめとする社会での活躍を支援することで、安心して楽しみながら子育てできるまち、こどもがのびのびと育つまちを目指す。

ついで
(経済)

商業・観光産業支援

新技術の普及により生活利便性が著しく向上した社会にあっても、まちを楽しむ人が集う将来を見据え、公民連携して観光産業都市の実現・商業機能の集積によりコンテンツが充実したまちを目指す。

ものづくり支援

国内屈指の製造業拠点の一角を担うものづくり産業が、産業構造が変化していく社会、労働力不足の時代を迎える社会にあっても、ものづくり産業が地域経済の柱であり続けるまち・市内での企業立地を促進するまちを目指す。

行政運営

スマートでスリムな行政運営の確立

全国的に先進性を有する公民連携や都市経営のスマート化などをきっかけとして、周辺都市との連携体制構築を図り、中枢中核都市として周辺都市を含めた地域全体の支えとなるまちを目指す。



【 総合政策指針素案 3 / 3 】

6 分野別指針

30年後の西暦2050年を目標年度とする将来都市像の実現にむけ、**今から10年間**の各分野における取組みの方向性を示す分野別指針を以下に設定します。なお、いずれの分野においても先に定めた基本指針のすべてをふまえたものとなることを前提とします。

- (1) **暮らしを支える都市基盤づくり**
岡崎版コンパクトシティの実現にむけて、「しごと」に引き寄せられて集まってきた「ひと」の住宅需要に対応しつつ、**暮らしの質を高める都市基盤が充実していく「まち」**をめざします。
- (2) **暮らしや産業を守る強靱な都市づくり**
市民を災害から守ることは、日本**経済**を支えるものづくり産業の強靱化に直結していることを念頭に、周辺都市を含む公民連携やインフラ老朽化対策と連動して、**災害に強いまち・被災時もスピード感をもった復旧・復興**ができるまちをめざします。
- (3) **持続可能な循環型の都市づくり**
環境・経済・社会の課題を踏まえ、公民連携して複数課題の統合的な解決を図る地域循環共生圏の枠組みの中で、**排出CO2の削減、生物の多様性確保、健全な水循環**、森林資源の保全、農地の保全がなされる持続可能なまちをめざします。
- (4) **多様な主体が協働・活躍できる社会づくり**
人口構成変化や年代別人口偏在に起因する担い手不足に負けない町内会の持続的な活動を新技術導入などにより支援しつつ、多様な主体が協働・活躍できる地域共生社会の実現による安全安心なまちをめざします。
- (5) **健康でいきがいをもって活躍できる社会づくり**
後期高齢者の急激な増加を迎える中であっても、各主体が我が事として活躍する地域共生社会の実現により保健・医療・福祉・地域が一体となって取り組むことで、**誰もがいきがいや役割を持って活躍できるまち**をめざします。
- (6) **学びによる活躍で岡崎愛が育まれていく社会づくり**
今後、大きな社会変化が起こった場合も、**新たな価値や将来を創り出すために**、市民が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せや活躍を実現できるまちをめざすとともに、学校教育・**社会生活**の中で岡崎愛が育まれていくまちをめざします。
- (7) **子どもや女性がいきいきと活躍できる社会づくり**
3世代の同居・近居率の高さ、西三河製造業勤務世帯の多さなど、本市特性に合わせ、**子育て世代の就労をはじめとする社会での活躍を支援することで、安心して楽しみながら子育てできるまち、こどもがのびのびと育つまち**をめざします。
- (8) **商業と観光が成長産業となる地域経済づくり**
新技術の普及により生活利便性が著しく向上した社会にあっても、**まちを楽しむ人が集う将来を見据え、観光と商業機能が連動した観光産業都市にふさわしいコンテンツが充実したまち**をめざします。
- (9) **ものづくりが柱でありつづける地域経済づくり**
産業の変革期や、労働力の不足が見込まれる社会にあっても、国内屈指の製造業拠点の一角を担うものづくり産業が地域経済の柱であり続けるまち、市内への企業立地を促進するまちをめざします。
- (10) **スマートでスリムな行政運営の確立**
全国的に先進性を有する公民連携や都市経営のスマート化などをきっかけとして、周辺都市との連携体制構築を図り、**中枢中核都市として周辺都市を含めた地域全体の支えとなるまち**をめざします。